買い物、通院困難

宮古・重茂の仲組、追切地区

孤立状態、断水続く

台風19号による大雨の影響で、宮古市重茂の仲組、追切両地区は、市街地に続く唯一の道が寸断され、買い物や通院が困難な孤立状態が続いている。16日は代替道路の工事が始まり、ヘリの物資輸送や医師らによる診療支援も実施されたが、全戸で続く断水は復旧のめどが立たない。車両が通行できるまでは約2週間かかる見通しで、住民は不安な日々を送っている。

台風19号の大雨で崩落した市道。仲組地区（手前）の孤立が続いている＝16日午後２時20分、宮古市重茂

仲組（18世帯46人）と追切（20世帯65人）は重茂半島北側にある集落で、市街地と両地区を結ぶ市道が大雨で崩落。現在の通行手段は徒歩のみで、市が代替路の確保を急ぐ。

陸上自衛隊や県の防災ヘリが食料や飲料水など物資の輸送を続ける中、住民の一番の心配は復旧が見えない断水。地元消防団の藤田隆弘分団長(56)は「断水が続き風呂に入れない。燃料の備蓄もいつまで持つだろうか」と疲労の色を見せる。

同日は通院できない住民のため、仲組地区の北地区公民館で、市の川井診療所の内科医や看護師、保健師が無料で診療。診察を受けた会社員小野千明さん(60)は「台風の後、ストレスで体調を崩した。悪化しないよう病院に行きたかったので薬をもらえて一安心だ」と安堵した。

市によると、崩落した道路は16日に歩行者用の橋を架けるが、車両が通行できるまで約2週間かかる。住民は市街地側と孤立地区側にそれぞれ車を止め、共有して買い物に使うなど工夫を凝らすが、通勤、通学の不安を抱えたままだ。漁業加村信一さん(68)は「港に行くまでの道路も壊れ、コンブやアワビの最盛期を前に車が使えないのは困る。一日でも早く道を通してほしい」と切望する。

台風の影響で、同市重茂では荒巻、鵜磯も孤立状態となり、16日までに車両が通行可能になった。

公民館で川井診療所の医師の診察を受ける住民。生活道が寸断され、かかりつけ医に通院できない不安な日々が続く＝16日、宮古市重茂・仲組地区

台風19号の情報を募集

本紙連載「特命記者　あなたの疑問　徹底解明」取材班は、台風19号に関する疑問や情報を募集しています。会員制交流サイト（SNS）のLINEなどでお寄せください。全てに答えを見つけるのは難しいかもしれませんが、記者が「あなた」のために取材して背景を深掘りし、今後の防災に役立てていきます。

情報をお寄せください

- LINEで岩手日報社を友だち追加してください
- FAX　019-623-1323
- Eメール　tokumei@iwate-np.co.jp
- お手紙　〒020-8622盛岡市内丸3-7 岩手日報社 報道部　「特命記者」係

婿どの相逢席

ご愛読いただいています宮本輝さんの小説「灯台からの響き」は20日に終了し、西條奈加さんの時代小説「婿どの相逢席」が21日に始まります。

ときは文政初期（1820年ごろ）、小さなようじ屋の四男鈴之助は、江戸で6代続く仕出屋・逢見屋の長女千瀬と相思相愛、婿入りすることになった。女系が続き女将が全てを采配する店で、目を光らせる姑に新婚早々から責められ肩をすぼめて日を過ごす。婚礼、成人、弔い―それぞれの特別な席には膳を囲む人々の物語がある。鈴之助はその意味を理解しながら、客の人生に大切な句読点を打つ役目を担う。

西條　奈加さん

21日から新連載小説

瀬知エリカさん

【作者の言葉】抱負は親しみやすさ、わかりやすさ。時代小説はとっつきづらい、と感じる読者が、無理なく読める物語が、私にとっての理想です。舞台は仕出屋、いわば料亭の前身であり、江戸の食文化には欠かせぬ存在でした。目だけで恐縮ですが、江戸の食を愉しみつつ、仕出屋に縁付いた婿どのの奮闘記を楽しんでくだされば幸いです。

さいじょう・なか　1964年北海道生まれ。2005年「金春屋ゴメス」で日本ファンタジーノベル大賞を受賞し、デビュー。12年「涅槃の雪」で中山義秀文学賞、15年「まるまるの毬」で吉川英治文学新人賞を受賞。「三途の川で落としもの」「ごんたくれ」「隠居すごろく」、また「まるまるの毬」の続編「亥子ころころ」等、多彩なテーマの時代小説、現代小説を手掛けている。

仕出屋の「婿どの」が妻とともに奮闘する人情味あふれる物語です。ご期待ください。

挿絵は書籍や雑誌の挿絵などを幅広く手掛けているイラストレーター瀬知エリカさんです。　岩手日報社

ニュースファイル

生き方は ひとつじゃないと 知る紙面

2019年度 新聞週間標語

■石川沖で北朝鮮漁船から乗員14日転落か　16日午前10時10分ごろ、石川県珠洲市の海岸から北西約340キロの沖で、北朝鮮籍とみられる木造漁船が転覆し、乗組員が転落したとの情報が第9管区海上保安本部（新潟）に入った。9管などは巡視船や航空機を派遣。現場では北朝鮮籍とみられる別の船が捜索中で、乗組員の転落事故は14日午前2時ごろ発生したとの情報を得たという。

◆強要未遂容疑で2人逮捕　北上署と県警組織犯罪対策課は16日、強要未遂の疑いで北上市立花16の115の12、運転代行業高橋鉄郎容疑者(38)を再逮捕、同市北鬼柳5の74の12、運転代行勤務高橋満容疑者(77)を逮捕した。

再逮捕、逮捕容疑は、4月9日午前1時半～同6時20分ごろ、花巻市の50代飲食業男性にそれぞれ電話し、背後に暴力団組織が関係していることをにおわせて指定の場所に来させようとした疑い。

高橋鉄郎容疑者は北上市内の飲食店で20代従業員男性に暴力団との関係をにおわせ「店をつぶす」などと迫ったとして、9月30日に脅迫の疑いで同署などに逮捕された。盛岡地検が16日、処分保留で釈放した。

同署によると、高橋鉄郎容疑者は脅迫容疑を否認。強要未遂容疑について同署は「共犯事件のため」として両容疑者の認否を明らかにしていない。

◆電子レンジ盗んだ疑い　花巻署は16日、窃盗の疑いで、東京都大田区東雪谷、介護職員菅原尚子容疑者(43)を逮捕した。

逮捕容疑は6月8～9日ごろ、当時勤めていた花巻市内の介護施設で、備え付けの電子レンジ（時価数千円相当）を盗んだ疑い。

盛岡工高副校長を一関区検略式起訴
酒気帯び運転の罪

一関区検は16日までに、道交法違反（酒気帯び運転）の罪で、盛岡工高の小野寺秀樹副校長(52)＝一関市＝を略式起訴した。3日付。一関簡裁は11日付で罰金30万円の略式命令を出した。盛岡地検は納付状況を明らかにしていない。

起訴状などによると、小野寺副校長は9月7日午前4時半ごろ、同市内で乗用車を酒気帯び運転したとされる。

小野寺副校長は現在、自宅待機しており、県教委は今後、処分内容を決める。

■全日空機、羽田に緊急着陸　16日午後9時35分ごろ、羽田発関西行き全日空99便ボーイング777が羽田空港に緊急着陸した。エンジントラブルが原因とみられ、離陸直後に引き返した。

国土交通省や全日空によると、乗客乗員約100人に、けが人の情報はない。エンジンからの出火も確認されていない。C滑走路に着陸後、管制官の指示で、滑走路上でエンジンを停止した。

◆労働安全衛生法違反の疑いで書類送検　花巻労働基準監督署は16日、労働安全衛生法違反の疑いで、奥州市胆沢若柳の産業廃棄物処分業、奥州循環システムと同社の男性代表取締役(60)を盛岡地検水沢支部に書類送検した。

書類送検容疑は3月1日、同社に隣接する工場で、稼働するベルトコンベヤーの周囲に巻き込み防止の覆いや囲いを設けないまま、作業を行わせた疑い。

同労基署によると、ベルトコンベヤーの清掃作業などをしていた30代男性従業員が、ベルトコンベヤーの不具合を解消する作業中にベルトとローラーに巻き込まれ、右前腕を切断する大けがを負った。

同社は岩手日報社の取材に対し「安全管理に不足があったと重く受け止めている。既に対策を講じており、今後も再発防止に努めていく」とした。

旧室根村長

小山　寛氏（おやま・ひろし＝旧室根村長）15日午後6時28分、急性心臓死のため気仙沼市内の病院で死去、84歳。遠野市出身。自宅は一関市室根町折壁1の9。火葬は18日午後1時から一関市千厩町千厩の千厩斎苑、通夜は18日午後3時から一関市千厩町千厩のエヴァホールせんまや、葬儀は19日午前11時から一関市室根町折壁の龍雲寺で。喪主は長男雅英（まさひで）氏。

室根村議を3期務め、96～01年議長。01年村長に初当選し、05年9月まで務めた。10年市勢功労者。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。